



Mr. Dennis M. Ritchie

- Member of Technical Staff
- AT&T Bell Laboratories

實際上、全ての種類と規模の機種間で、ソフトウェアの共通使用を可能とするコンピュータ・オペレーティング・システム“UNIX”及びシステム記述用“C言語”の創造によって、コンピュータ産業界に新時代を開拓した革新的貢献

略歴と主なる業績

• デニス M. リッチー氏は、米国ニュージャージー州マレーヒルにあるAT&Tベル研究所のDistinguished Member of Technical Staffであられる。

• リッチー氏は、1941年9月9日、米国ニューヨーク州ブロンクスヴィルに生まる。ハーバード大学に学び、1963年には、物理学においてBAの学位を得られた。つづいて同大学で、応用数学の分野において、1964年にはMAの学位を、1967年にはPhDの学位を得られた。

• リッチー氏は、1967年、AT&Tベル研究所に入社、Information Sciences Research Divisionに所属され、今日に及んでいる。彼はまず、当時、ベル研究所、MIT、GE社の三者の共同開発として進められていたマルチックス・プロジェクトに貢献された。そこでの彼の担当は、マルチックス・マシン（GE645）とGE635に用いるBCPLランゲージのためのコンパイラの作成であった。さらに、記号計算用の言語とシステムであるALTRANのトランスレータの作成も担当された。

• 続いて、ケネス L. トンプソン氏に協力され、Unixオペレーティング・システムの創作に進まれた。そのUnixが、ベル研究所内だけでなく、さらに外部における教育、政府、商業などの施設でも充分適用されはじめるに及んで、リッチー氏は、スティブン C. ジョブソン氏とともに、このUnixを他のハードウェア・アーキテクチャへの移植にも成功された。こうしてUnixシステムの優れた可搬性を実証され、汎用性の基礎を確立されたのである。ベル研究所のこの研究グループによるUnixの第7版のシステムは、今日のUnix System Vの開発に貢献し、またカリフォルニア大学バークレイ校のシステム拡張活動の基礎ともなったのである。

• Unix開発の初期において、リッチー氏は、トンプソン氏の創作になる“B言語”に、データ・タイプと新しいシンタックスを加えることにより、新しい“C言語”を創作された。このC言語は、Unixの優れた可搬性の基礎となったもので、やがて他のコンテキスト

にも広く用いられるようになったのである。最近、このC言語に対する米国国定標準の制定作業が完了し、近々、国際標準として受け入れられることが期待されている。

• リッチー氏の、Unixシステムに対する最近の貢献は、接続される回路網、端末やプロセスに対するストリーム入出力メカニズムを統一的に解明されたことである。彼は今なお、コンピュータのオペレーティング・システム、プロセス間通信、および言語の研究を精力的に続けておられる。

主なる表彰等

- ベル研究所フェロー（1983年）
- 米国コンピューティング・マシンリー協会（ACM）Turning賞（1983年）
- 同ACMソフトウェア・システム賞（1983年）
- IEEE Emmanuel Piore賞（1982年）
- ACMシステムと言語分野の優秀論文賞（1947年）
- 米国ナショナル工学アカデミー会員（1988年）

主なる著作等

- “The C Programming Language”
(B. W. Kernighanと共著) (1978年)
(第2版 1988年)
- 論文 “The UNIX Time-Sharing System”
(K. L. Thompsonと共著) Communication, ACM,
(July 1974)
- 論文 “Portability of C Programs and the UNIX System” (S. C. Johnsonと共著) BSTJ 57 (6)
- 論文 “A Stream Input-Output System”
BSTJ 63 (8, Part2)
- リッチー氏は、UNIXシステムで使用されるアクセス保護方式に関する特許を保有されている。

Mr. Kenneth L. Thompson



- Member of Technical Staff
- AT&T Bell Laboratories

實際上、全ての種類と規模の機種間で、ソフトウェアの共通使用を可能とするコンピュータ・オペレーティング・システム“UNIX”及びシステム記述用“C言語”の創造によって、コンピュータ産業界に新時代を開拓した革新的貢献

略歴と主なる業績

• ケネス L. トンプソン氏は、1966年に、米国ニュージャージー州マレーヒルにあるAT&Tベル研究所に入社され、現在同所のMember of Technical Staffであられる。同氏は、同僚のデニス M. リッチー氏とともに、Unixオペレーティング・システムを創作され、さらにそれを、ひとつのオペレーティング・システム・ファミリーにまで、拡張開発をされた。そしてそれは、やがて世界的な標準のシステムとなったものである。

• トンプソン氏は、1943年2月4日、米国ルイジアナ州ニューオーリンズに生まる。同氏は、1965年、カリフォルニア大学バークレイ校において、電気工学部門で、BSの学位を得られた。続いて1966年には同校において同部門のMSの学位を取得された。

• トンプソン氏は、1975年より1976年まで、カリフォルニア大学バークレイ校の客員講師として、電気工学とコンピュータ・サイエンスの講義を担当された。また、1988年には、オーストラリアのシドニー大学において、コンピュータ・サイエンス学部の客員教授を務められた。

• ベル研究所においては、トンプソン氏は、オペレーティング・システム、プログラム言語、およびコンピュータ・ゲーム関係の研究を遂行された。さらに、同僚のJ. H. コンドン氏とともにチェス・プレーイング・マシンの開発に成功された。そしてこれにより、米国のナショナルおよび世界コンピュータ・チェス・チャンピオンシップを獲得されたのである。

主なる表彰等

- ベル研究所フェロー (1983年)
- 米国コンピューティング・マシンリー協会 (ACM) Turning賞 (1983年)
- Commonwealth賞 (1983年)
- Fredkin賞 (Master Statusを達成した最初のチェスマシンに対して) (1983年)
- ACMソフトウェア・システム賞 (1983年)
- IEEE Emmanuel Piore賞 (1982年)

- 米国ナショナル工学アカデミー会員 (1982年)
- 米国ナショナル科学アカデミー会員 (1985年)

主なる著作

- “正規表現式検索アルゴリズム” (CACM 11(6) 1968年)
- “The UNIX Time-Sharing System” (D. M. Ritchie氏と共著 CACM 1974年)
- “Belle” (J. M. Condon氏と共著 Peter Frey編集の「人間と機械とのチェスのスキル」 Springer Verlag 1982年に収録)
- “Retrograde Analysis of Certain End-games” (ICCAJ 1986年)